

1月給食だより

令和6年度 1月号
佐賀市立川上小学校



新年あけましておめでとうございます。3学期が始まり、今年度も残すところあと3か月となりました。6年生にとっては小学校最後の学期となります。みなさんが毎日元気で過ごせるように給食室では引き続き、給食時間が待ち遠しくなるような、魅力ある給食作りに努めていきたいと思っております。本年もよろしくお願ひいたします。



阪神・淡路大震災から30年

災害時の『食』を備えましょう

1995(平成7)年1月17日に、阪神・淡路大震災が発生しました。寒さ厳しい中、被災した多くの人たちを支えたのは、ボランティアによって届けられた炊き出しの「おむすび」です。震災発生から5年が過ぎた2000年、兵庫県が事務局を務める「ごはんを食べよう国民運動推進協議会」は、食料の重要性や、ボランティアの善意を忘れないために、この日を「おむすびの日」と定めました※。阪神・淡路大震災の発生から今年で30年となります。昨年元日に発生した令和6年能登半島地震が記憶に新しいですが、この30年の間にも各地で大きな災害が頻発しています。災害発生直後は支援が届かないということを前提に、一人ひとりが自分の命は自分で守ることを意識し、普段から備えをしっかりとしておくことが大切です。

※2018(平成30)年8月31日に同協議会は解散し、この取り組みは、公益社団法人米穀安定供給確保支援機構へ引き継がれています。

1月24日~30日は、全国学校給食週間です!

日本の学校給食は、明治22年、山形県鶴岡町(現:鶴岡市)の私立忠愛小学校で提供されたのが始まりとされています。その後、各地に広まったものの、戦争による食料不足で中断されてしまいました。

戦後、子どもたちの栄養不足を改善するため、昭和21年にアメリカの支援団体「LARA(アジア救済公認団体)」から、給食用物資の寄贈を受けて、翌年1月から学校給食が再開されることになりました。昭和21年12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、昭和25年度からは、冬季休業と重ならない1月24日~30日までの1週間で「全国学校給食週間」とすることが定められました。

全国学校給食週間を通して、学校給食の意義や役割などを皆さんに知ってもらい、学校給食についてあらためて考える機会にしてほしいと思っております。



学校給食の移り変わりを見てみよう!

明治22年	戦後(昭和20~30年代)	現在
<p>私立忠愛小学校で提供されるとされる給食。</p>	<p>支援物資の脱脂粉乳や缶詰、小麦粉などを使った給食。</p>	<p>地域でとれる旬の食材を取り入れ、郷土料理や行事食、世界の料理など、食育の教材となる給食。</p>

1年1組 みんなのサラダ

2学期に1年生の授業で「サラダでげんき」というお話が登場しました。主人公の「りっちゃん」がサラダを作るお話で、1組のみなさんが、りっちゃんのようにサラダに入れるおすめ材料をを考えてくれました。1月31日に「1年1組 みんなのサラダ」として献立に登場しています。おいしくいただきます。

……みんなのアドバイス……

サラダには「にく」を入れたらいいですよ。すぐに元気になりますよ。
「チーズ」を入れたらいいですよ。あたまがよくなりますよ。
「マカロニ」を入れたらいいですよ。ダンスがじょうずになりますよ。
その他、いろいろな食材をすすめてくれて、おいしいサラダができました。



災害時の食の備え

そのまま食べられる 非常食	ローリングストックで備える 日常食品	外出時の 持ち歩き用品
<p>アルファ化米、缶詰、レトルト食品、菓子類など</p>	<p>お米、乾麺、乾物、日持ちの野菜・果物、調味料など</p>	<p>飲料水、チョコレート・あめなどの菓子</p>

水は調理も含めて1人1日3リットル必要とされています。できれば1週間分備えておくと安心です。

カセットコンロとボンベがあれば、温かい料理を食べることができます。あらかじめ使い方を確認しておきましょう。

災害発生直後の食事

避難所などへ避難することも考え、1日分の飲料水と非常食を、非常用持ち出し袋等に入れておきましょう。家にとどまる場合は、冷蔵庫・冷凍庫の中にある腐りやすいものから食べ始めると、食品を無駄にせずに済みます。



家庭で備蓄リストの作成を!

家族の好みや状況によって必要な物は異なります。家庭で備蓄リストを作成し、必要な物を準備しておきましょう。

